地域連携支援学生の意識調査に関する一考察

呉高専　正員　市坪　誠　山岡俊一　佐賀野　健　福原安洋
呉高専　学員　藤原千鶴　ジョンソンコントロールズ社　溝上裕二

1．はじめに

近年，地域計画およびその形成の在り方として，地域の特色を生かしたまちづくりが注目され，これを実践・継続する人間個人の資質（人間力）向上が求められる。ここで，人間力とは具体的な定義がなく，まちづくりに影響する効果についても十分に明らかでない現状にある。

そこで本研究では，今後の地域計画に資する人材育成の基礎的資料を得るために，まず人間力の定義を行い，続いて地域連携事業をとおした人間力支援プログラムを開発しこれを検証した。つまり，地域連携活動を支援した学生の人間力の変化を把握し，これを報告するものである。

2．人間力の定義

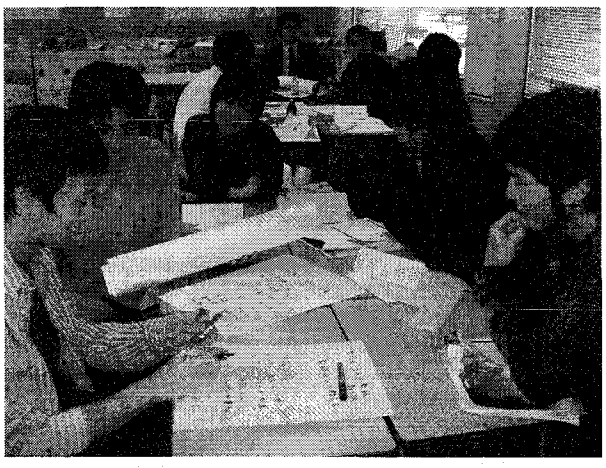
自分の感情を知り相手とうまくつきあう力であるEQ（こころの知能指数）を踏まえ，求められる人間力を 17 項目で定義した。具体的項目は，リーダーシップ力，社交性，協調性，向上心，積極性，創造力，工夫する力，公共心，プレゼンテーション能力，問題解決力，責任感，知的探究心，持続力，論理性，伝達力，人の話を聞く能力，思いやりである（図－１参照）。

3．研究概要

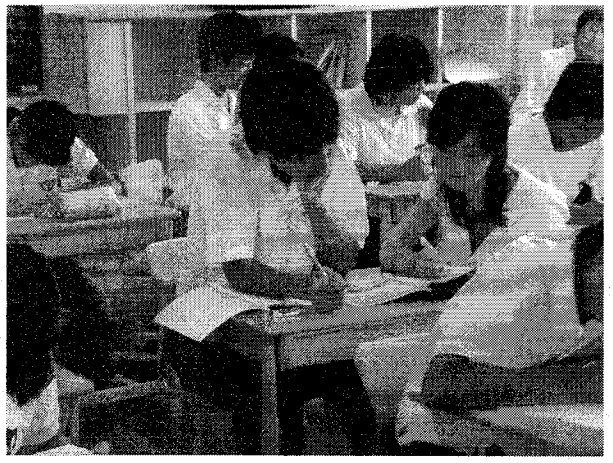
地域連携事業として，隣接する中学校の要請に基づき，中学生に対する学習支援活動（ティーチングアシスタント：ＴＡ）を行った。支援活動の実践者はＴＡ活動を希望した学生 39 名である。著者らは，ＰＤＣＡ（Plan, Do, Check, Action）サイクルを踏まえ，学生の人間力向上を継続的に支援するプログラム開発を行った（表－１）。その具体的セミナーの内容は，３回の講習（ワークショップ形式）と７回の実践活動（ＴＡ）である（写真－１，２）。人間力の把握は，学生自身が自らを人間力アンケート（意識調査）により評価するもので，５段階評価のうち数値が高くなるほど能力が高いことを示す。なお本研究は，紙面の都合上，PDCA サイクル全てに参加した対象者（8 名）による事前（支援前）と事後（支援終了後）のデータにより，その意識（人間力）の変遷を報告する。

表－１　セミナー実践プログラム

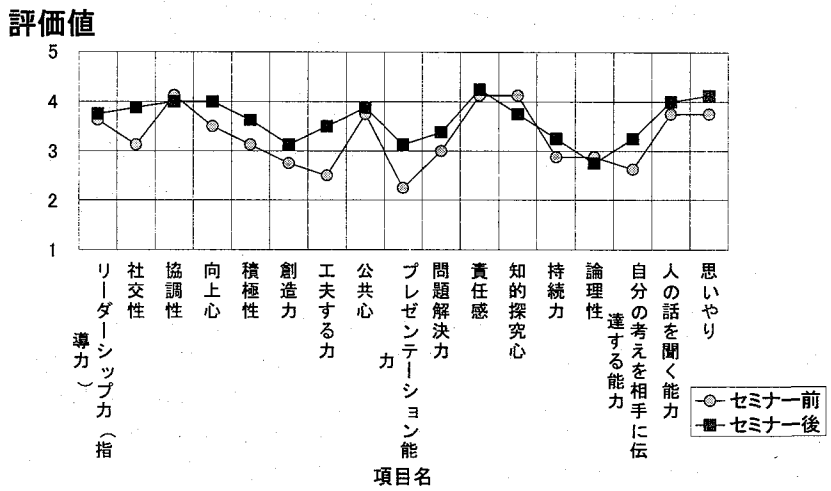
サイクル	内容	日時	参加人数
PLAN	講義	11月11日(金)	39
	講義、WS	11月12日(土)	17
DO	中学校でのTA実施	11月15日(火)	12
		11月22日(火)	15
		11月29日(火)	16
		12月13日(火)	13
CHECK	講義、WS	12月17日(土)	12
ACTION			
PLAN			
DO	中学校でのTA実施	12月26日(月)	14
		12月27日(火)	14
		1月6日(木)	14
CHECK	ワークショップ	2月4日(土)	18
PLAN:計画　DO:実施 CHECK:確認　ACTION:改善		延べ人数	184



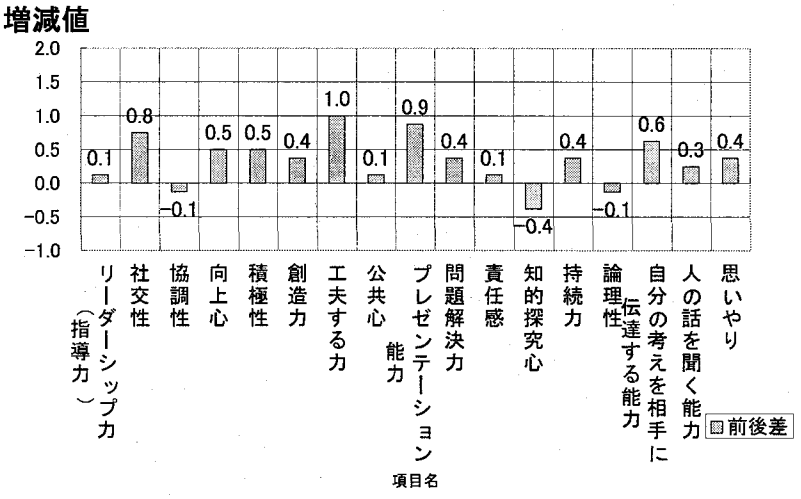
写真－１　事前講習（ワークショップ）



写真－２　ＴＡの状況



図－１　事前事後における人間力評価



図－２　事前事後における人間力の変化

４．結果及び考察

人間力アンケートの結果として，事前事後の平均値を図－１に示した。５段階評価のうち「3：どちらでもない」を基準にすると，３より低い値はマイナス評価であり，高い値はプラス評価となる。セミナー前には，創造力，工夫力，プレゼンテーション力，持続力，論理性，伝達力の６項目で自己を低く評価していることが理解できた。セミナー後は６項目中，論理性を除く５項目でマイナスからプラス評価に転じた。

活動前後の評価変化を把握するため，図－１による事前事後の差異を図－２に示した。これより，活動前後で能力は総じて向上傾向にあることが理解できた。特に顕著な向上項目は，工夫力，プレゼンテーション能力，社交性の３項目となった。つまり，中学生への学習支援活動は，学生自身の人間力向上に寄与することが把握できた。差異が減となった項目において，協調性と論理性は許容誤差の範囲内であり，知的探求心はもともと高評価であったことから実践後に自分を謙虚にみつめられる姿勢が表現されたものと推察された。なお，支援学生個々人の結果においても，総じて人間力の向上が図れた。

今後は，人材育成がまちづくりや地域計画，合意形成に及ぼす効果ついても検証する予定である。

５．まとめ

本研究で得られた結果を以下に示した。

１）人間力の定義を行い，定量的な人間力評価が可能になった。

２）地域連携支援事業を活用する，ＰＤＣＡを踏まえた人間力支援プログラムを開発した。

３）支援学生の人間力のうち特に，工夫力，プレゼンテーション能力，社交性の向上が顕著となった。